

提言「第 24 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン(マスタープラン 2020)」インパクト・レポート

1 提言等内容

日本学術会議科学者委員会研究計画・研究資金検討分科会は第 24 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン 2020）を策定し、以下を提言として公表した。

- ・ 科学者委員会研究計画・研究資金検討分科会は、マスタープラン 2020 として区分 I（新規計画；146 件）と区分 II（実施中の計画 15 件）の学術大型研究計画を選定した。いずれも学術的意義の高い大型研究計画である。
- ・ 区分 I の学術大型研究計画の中から 16 件の新規重点大型研究計画を選定するとともに、15 件の重点大型研究計画の継続を承認し、計 31 件の重点大型研究計画を選定した。重点大型研究計画は学術大型研究計画の中でも特に優先順位が高く、国や地方自治体等によって予算化され、可及的速やかに推進されるべきものである。
- ・ 科学者コミュニティのボトムアッププロセスによって策定されたマスタープラン 2020 が、多様な学術の発展に貢献するとともに、我が国の学術政策、さらに関係省庁、大学、研究機関等における具体的施策や予算措置に活かされるよう提言する。

2 提言等の発出年月日

2020 年 1 月 30 日

3 フォローアップ（提言を浸透させるための提言者側のシンポジウムや出版等の活動） シンポジウム等は開催していない。

4 社会に対するインパクト

(1) 政策への反映

有

文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会の下の学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会で策定された「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップの策定 -ロードマップ 2020-」に掲載するプロジェクトの選考において、マスタープラン 2020 の重点大型研究計画及びその選考のためのヒアリングに選ばれた課題を審査候補としている。本ロードマップ掲載課題は大規模学術フロンティア促進事業の候補となることから、政策と社会へのインパクトは大きい。

https://www.mext.go.jp/content/20200930-mxt_gakkikan1388523_1.pdf

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

(a) 学協会

不明（情報を得ていない）。

(b) 研究教育機関

不明（情報を得ていない）。

(c) 市民

- ・大船渡市のHP等に取り上げられ、市民に情報が提供された等の反応があった。

5 メディア

多くの新聞（全国紙及び地方紙：日本経済新聞、毎日新聞、朝日新聞、読売新聞、産経新聞；岩手日報等々）、評論、テレビ（NHK、民放）等で報道された。

6 意思の表出内容において、他の異なる意見との関係性等に変化があれば記載してください。

特になし

7 考察と自己点検（a-cから一つ選択し、説明する）

(a) 予想以上のインパクトがあった

過去のマスタープランに比べてメディアの反響等は大きかったと感じている。

マスタープランは、多くの学術分野が膨大な努力・労力をかけて提案する、分野の骨組みとなる計画であり、その内容は大変貴重で学術界のみならず、国や自治体、社会、国民の皆様知ってもらうことが必要である。そのため、今回はヒアリングを準公開にし、計画の公開・公表用の表紙や要約のフォームを提供するなどの工夫をした。今後さらに活用されることを期待したい。

インパクト・レポート作成責任者
科学者委員会研究計画・研究資金検討分科会
委員長 藤井良一
提出日 2021年3月16日